

党議員団も市民も求めてきた移動手段の確保問題

「お出かけ支援事業実証実験」木幡南山、大久保町平盛で秋から開始



高齢者、軽度の障害者など、買物・通院・外出の支援へ

「お出かけ支援事業実証」150万円の予算が計上

市はこれまで、駅やバス停までの移動が困難になっている市民が移動が困難で解決してほしいと要望しているのに、「宇治市は交通に便利なまち」だとして背を向けてきました。

党議員団や市民が繰り返し移動手段の確保を求めるなかで、市はやっと、「お出かけ支援実証実験」の予算150万円を計上しました。

「実証実験」の試行地域を丘陵地、平坦地、山間地とし、買物や通院、外出機会等の支援を目的に、バス停留所やスーパー等まで、事前に登録した交通不便地域の高齢者、軽度の障害者、妊婦、子育て世帯が利用するとしています。

実証運行期間は、秋頃から約3カ月間で、試行地域は、木幡南山地域と大久保町平盛地域です。市は、地元と調整し実証運行を開始するとしています。

党議員は、一番合理的な予約制のりあいタクシーの導入を求めましたが、市は明確な答弁をしませんでした。

毎年赤字続きの歴史公園・茶づな PFI事業者との契約見直しが必要

歴史公園・茶づなは、2021年8月21日の業務開始以来、毎年赤字が続いている。SPCが指定管理者となって業務を運営しています。

茶づなは、2021年度4千9648千円の赤字で、赤字分の負担割合をめぐって現在、市と事業者が調停中です。

22年度4215万2千円、23年度2613万円の赤字となり、源氏物語ミュージアムは来館者20万人を超えてるのに、茶づな来館者数は目標の11万5千人を大きく下まわっています（図参照）。

24年度は、本来市民が利用する貸室の会議室を、市が税金を投入して借り切り、大河ドラマ「光る君

へ」の展示を行いました。賃貸収入が約2千万円増える見込みです。

SPCとの契約解除を検討すべき

党議員は、「21年度の約4900万円の赤字負担の調停はどうなっているのか」「契約解除も含めて事業の見直しが必要だ」と追及。市は、応えませんでした。

歴史公園事業に賛成し推進してきた自民・公明・うじ未来などの議員からも、厳しい意見が出されています。

赤字をこれ以上増やさないためにも、市の決断が必要です。

歴史公園・茶づな 運営状況

単位：千円

	2021年度	2022年度	2023年度
入館者数	8,083人	11,687人	19,018人
収入	40,934	77,880	92,359
支出	90,582	120,032	118,489
収支	△49,64	△42,15	△26,130

大阪・関西万博に小・中学校の貸切りバス代 児童・生徒の動員はやめるべき

4月13日開幕の大阪・関西万博予算に小・中学校の体験学習支援事業費1千500万円が予算計上。学校教育活動として、万博会場への貸し切りバス代を支援するとしています。入場券は京都府が負担します。

万博入場券の販売は目標に達せず、学校の事前の下見もできず、もともとゴミの最終処分場として造成された会場ではメタンガスが発生し、爆発事故も起こっています。また、希望するパビリオンに行けるか不明で、昼食会場の不足も懸念されます。こうした問題は何も解決していません。子どもたちの安全のためにも、動員は中止するべきです。

